

(89)

連鉄スラブ内の含CaO大型介在物の起源

川崎製鉄技術研究所

○北岡英就 堀生泰弘

理博江見俊彦

千葉製鉄所

上田典弘 白石昌司

1. 緒言： 連鉄機には、しばしばCaOを含む大型介在物が認められ、超音波探傷欠陥などの原因となることがある。このCaOの起源については各種の説があるが、定量的に実証されてはいない。今回、スラブ内の大型介在物中のCaOに対する各起源からの寄与を明確にするため、主な起源と予想されるタンディッシュおよびモールドのフラックスにそれぞれ、 La_2O_3 , CeO_2 をトレーサーとして溶け込ませた状態で铸造したスラブ内の大型介在物とスライム抽出した後、当社開発のガラスピード法で介在物中の La_2O_3 , CeO_2 , CaOなどを定量し、各起源からの混入率を明らかにした。

2. 方法： 千葉製鉄所湾曲型スラブ連鉄機において、厚板用50キロ級鋼($\text{Al} \geq 0.020\%$)を対象に、トレーサーとしてタンディッシュ・フラックスには La_2O_3 、モールド・フラックスには CeO_2 を各10%あらげじめ均一に混合しておき、通常工程と同条件で使用し、 $260 \times 1700\text{ mm}$ スラブを铸造(铸造速度 約0.6 m/min, 逆Y型F-S複浸漬ノズル使用)した。実験は取鍋下注入管使用の有(ヒートA), 無(ヒートB)の2ヒートで、铸造中期のスラブの湾曲上面側の介在物集積帯からスライム法により、 $50\text{ }\mu\text{m}$ 以上の大型介在物を抽出分級し、粒度別に組成を分析した。

3. 結果と考察： 各ヒートの全抽出介在物量および全介在物中CaO量を図-1に、粒度別平均組成を表-1に示す。いずれのヒートも、 CeO_2 は検出されずが、 La_2O_3 が多いほどCaOが多いこと、又含CaO介在物組成がタンディッシュ・フラックス組成に近いこと(図-2)などから、タンディッシュ・フラックスがCaOの主起源となっていることが明らかである。なお介在物中のCaO含有量は、粒径が小さいほど多くなっている。

フラックスヒート中の La_2O_3 濃度の比較により、タンディッシュ・フラックスの全介在物量および介在物中のCaOに対する寄与が求まる。すなわち、全介在物量中、ヒートAの場合 約 $6\text{ mg}/10\text{ kg-steel}$ (約6%)に対して、ヒートBでは約 $180\text{ mg}/10\text{ kg-steel}$ (約50%), 全介在物中のCaOに対するヒートAの場合 約 $1.6\text{ mg}/10\text{ kg-steel}$ (約64%)に対して、ヒートBでは約 $45\text{ mg}/10\text{ kg-steel}$ (約99%)がタンディッシュ・フラックス起因である。残りのCaOは、いずれのヒートも取鍋内介在物に起因する。

以上から、連鉄スラブ内の大型介在物中のCaOは主として取鍋からの溶鋼流によりタンディッシュ内に大量にさ込まれるタンディッシュ・フラックスに起因していること、これは注入管の使用

により大幅に低減できることが明らかになった。

4. 結論： 連鉄スラブ内の含CaO大型介在物の起源をトレーザー法により調査した結果、各起源からの混入率を明らかにでき、

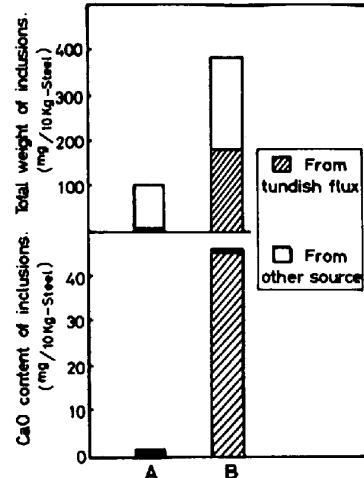


図-1. 全大型介在物量($\geq 50\text{ }\mu\text{m}$)および大型介在物中CaOに対するタンディッシュ・フラックスの寄与。

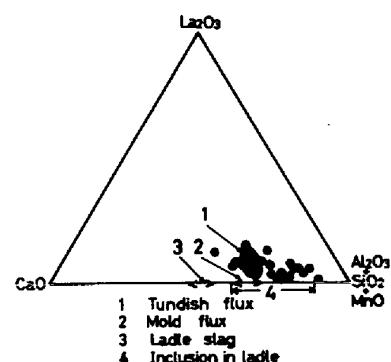


図-2. 含CaO介在物組成

表-1. 大型介在物の粒度別平均組成

Heat	Size (μm)	Composition (%)							
		MnO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	CaO	FeO	La ₂ O ₃	CeO ₂	
A	50 ~ 200	3.3	82.0	5.9	4.8	3.7	1.2	0	0.6
	200 ~ 400	15.4	64.1	16.3	1.3	2.9	0	0	0.2
	> 400	18.0	73.5	17.4	0.8	3.4	0	0	0.1
B	50 ~ 200	1.6	73.5	24	14.2	1.6	1.8	0	2.8
	200 ~ 400	9.6	63.8	10.0	102	1.8	1.2	0	1.7
	> 400	12.8	64.6	14.6	6.3	2.3	0.6	0	1.0